

サミット 平成29年3月期中間決算 ～“成長ストーリー”で「中計2019」に臨む～

【連結業績】

(百万円、%)

	平成27年9月中間期			平成28年9月中間期			平成29年3月期 (計画)		
	金額	売上比	対前年中間期増減率	金額	売上比	対前年中間期増減率	金額	売上比	対前期増減率
営業収益	132,498	—	4.3	137,577	—	3.8	276,700	—	3.9
売上高	127,664	100.0	4.4	132,642	100.0	3.9	266,700	100.0	3.9
営業利益	3,132	2.5	52.5	3,475	2.6	10.9	6,740	2.5	0.5
経常利益	3,007	2.4	58.7	3,368	2.5	12.0	6,520	2.4	0.8
中間純利益	1,998	1.6	65.1	2,663	2.0	33.3	3,260	1.2	0.7

【単体業績】

(百万円、%)

	平成27年9月中間期			平成28年9月中間期			平成29年3月期 (計画)		
	金額	売上比	対前年中間期増減率	金額	売上比	対前年中間期増減率	金額	売上比	対前期増減率
営業収益	127,372	—	4.7	132,720	—	4.2	267,000	—	4.0
売上高	122,032	100.0	4.8	127,277	100.0	4.3	256,000	100.0	4.0
営業利益	2,934	2.4	54.0	3,306	2.6	12.7	6,600	2.6	0.5
経常利益	2,821	2.3	60.7	3,204	2.5	13.6	6,400	2.5	0.8
中間純利益	1,879	1.5	70.0	2,562	2.0	36.3	3,200	1.3	1.0

サミットは11月8日(火)、平成29年3月期第2四半期決算を発表。連結・単体共に過去最高の売上高と純利益となった。なお、中間純利益の伸びが高いのは、同中間期において不動産の売却益が計上されたためである。

通期の見通しは、5月の年初計画から変更はなし。当期純利益3,260百万円は同社通期最高益となる。

【単体決算】

売上高伸長の要因は既存店売上高の伸長に加え、新店である「尻手駅前店」や「羽衣いちよう通り店」などが貢献。

既存店売上高はスーパーマーケット3団体発表の「SM販売統計調査」数値0.1%を上回り3.4%増。客数は3.5%増。客数増の要因は、売価の強化に加え、「案内係」や「おためし下さい」「私の喫茶室」などの買い物を楽しむサービス、フレッシュサラダ&カットフルーツ、煮魚・焼魚、グリルキッチンなどの新MDが利用客に受け入れられたものと

している。

部門別売上高は全部門で前中間期の売上高を上回った。生鮮3部門で35.6%、総菜・ベーカリー計で10.8%、生鮮5部門(青果・鮮魚・精肉・総菜・ベーカリー)で46.4%。非生鮮は53.6%。将来的には生鮮と非生鮮を逆転させたい考えであり、そのための施策第1弾として店内加工の「鍋セット」6種類を発売した。

売上総利益率は全部門で前中間期を下回った。これは同社の政策的なもので、売上総利益率を減少させたことで(…続きは正規版にお申し込み下さい。)



代表取締役社長
竹野 浩樹 氏